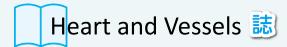


News Letter | Letter | Summer 2018 | No.5 | | Amount |

論文ピックアップ



CAG後、尿中L-FABPを測定することにより 虚血性心疾患患者の1年後の腎機能を予測する

Fujita, et al., Heart and Vessels, February 2014

Keywords

尿中 L-FABP(L型脂肪酸結合蛋白)、慢性腎不全(CKD)、造影剤腎症、腎機能、予後

目 的

造影剤腎症を予測できる指標として、尿中L-FABPは有用であると報告されているが、腎機能の長期予後を評価するためには使用されていない。冠動脈造影を複数行う患者群においては、腎障害の予後を予測できるバイオマーカーの役割は重要であることから、尿中L-FABPが腎機能の長期予後に有用であるかどうかを検討した。

対象と方法

虚血性心疾患(IHD)の疑いがあり、血清クレアチニンが 1.2mg/dL以上の患者群を対象とし、冠動脈造影(CAG) の術前、術後24時間、術後48時間において、血清クレアチニンと尿中L-FABPを測定した。またフォローアップ 時に、eGFRを測定した。

結・果

対象期間2009年1月~2010年3月、慢性腎不全(CKD)の患者群24例を対象にした検討にて、CAGから1年後に、eGFRが悪化しなかった群と、悪化した群を比較したところ、術後1年後にeGFRが悪化した群では、悪化しなかった群よりも、術後48時間の時点で尿中L-FABP測定値は有意に高かった。

表1 患者背景

(文献内、Table 2 より一部改変)

(文献内、lable 2 より一部改変)
24
69.9±8.5
2(8%)
24(100%)
1.37±0.20
40.83±7.96
1.20±0.24
60.0±17.9
1箇所n=5 2箇所n=10 3箇所n=9

結論

冠動脈造影から48時間に尿中L-FABPを測定することは、腎障害を見つけるために有用であり、また術後1年後の腎機能の予後を予測する上でも有用である。

News Letter L-FABP

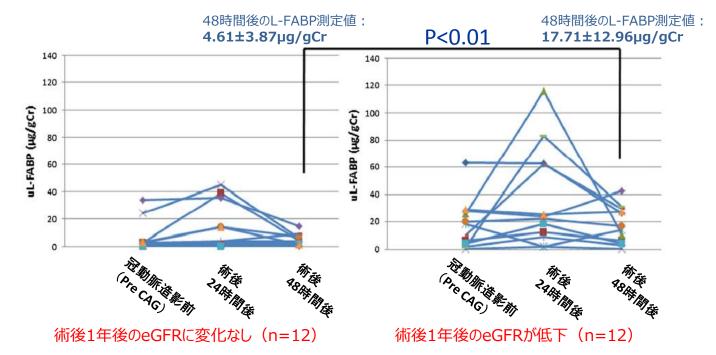


図 1 1年後の腎機能低下群と非低下群における、冠動脈造影48時間後のL-FABP測定値 (文献内、Fig. 1 よりー部改変)

表 2 術後1年後のeGFR変化を予測するための単変量解析と多変量解析 (文献内、Table 3 よりー部改変)

	単変量解析		単変量解析 多変量解析		量解析
	R	P値	R	P値	
性別	0.24	0.25			
年齢	-0.11	0.60			
糖尿病	0.15	0.48			
ベースライン 血清クレアチニン	0.001	1.00			
ベースライン eGFR	0.002	0.99			
ベースライン シスタチンC	0.45	0.03	0.39	<0.01	
造影剤投与量	0.21	0.32			
ACE阻害薬	-0.25	0.24			
ARB	0.33	0.12			
スタチン	0.27	0.21			
顕性尿蛋白質	0.60	<0.01	0.006	0.712	
尿中L-FABP					
冠動脈造影前	0.27	0.20			
24時間後	0.27	0.21			
48時間後	0.65	<0.01	0.46	<0.01	

出典:Response of urinary liver-type fatty acid-binding protein to contrast media administration has a potential to predict one-year renal outcome in patients with ischemic heart disease. Heart Vessels. 2014 Feb 20. Fujita D, Takahashi M, Doi K, Abe M, Tazaki J, Kiyosue A, Myojo M, Ando J, Fujita H, Noiri E, Sugaya T, Hirata Y, Komuro I

製造販売元

シミックホールディングス株式会社

L-FABP事業部 〒141-0031 東京都品川区西五反田7-10-4 金剛ビル TEL:03-5843-4092 / FAX:03-3830-5455 URL:http://www.fabp.jp E-mail:I-fabp@cmic.co.jp 取扱店